

## ◎ 今月のトピック

### ◆ 南会津グリーン・ツーリズムガイドブックとデータブックを作成！

南会津地方グリーン・ツーリズム推進協議会（事務局：南会津農林事務所）では、今回南会津のグリーン・ツーリズムを紹介するガイドブック（一般向け）とデータブック（業者、行政向け）を作成しました。

これらは、今年度各町村、JA、農林事務所のグリーン・ツーリズム担当者からなる作成委員会が主となり、5月から検討を重ねて作成したもので、農林業関係だけでなく、観光関係、教育関係等の幅広い協力を得ながら完成しました。

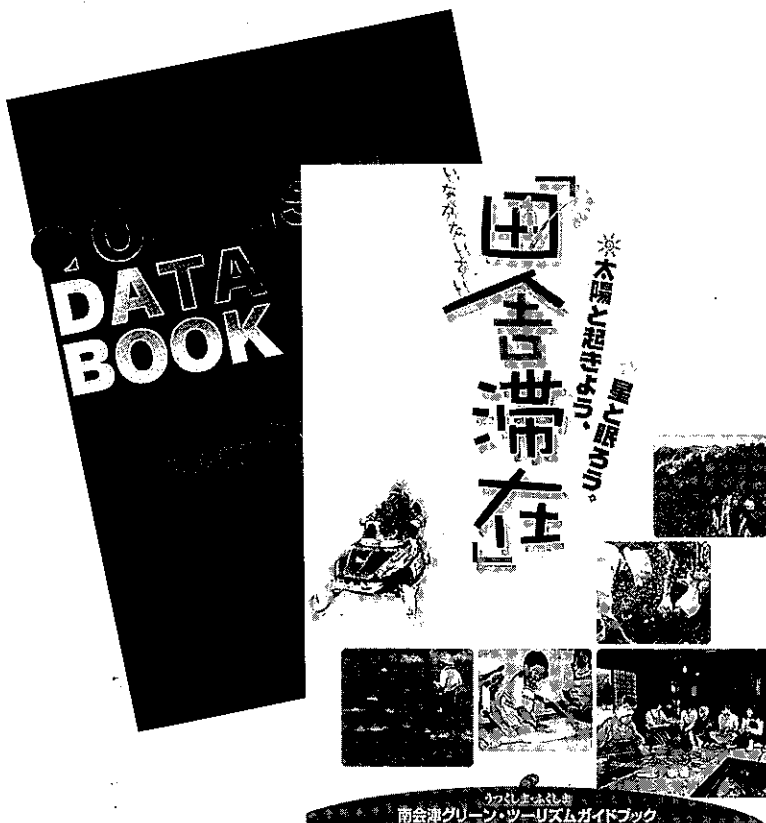
本誌は、県内外に向けて、南会津のグリーン・ツーリズムをPRし、また、豊富なグリーン・ツーリズム資源を有効に活用できるように作ったもので、南会津のグリーン・ツーリズムがますます活発になり、首都圏などから来県者が増えることで、南会津全体の地域活性化につながるものと期待されています。

### ◆ 「奥会津味おこしフォーラムin只見」を開催 ～会津地鶏の消費拡大を目指して～

2月29日に「奥会津味おこしフォーラムin只見」が只見町の只見総合開発センターで開催され、郡内の旅館、民宿、調理人など65人が参加しました。

この催しは、南会津農林事務所や町村等で作る会津地鶏定着化推進協議会と只見町会津地鶏推進協議会が共催で行ったもので、事前に選考された会津地鶏を使った新メニュー3品（会津地鶏胸肉のサラダ、会津地鶏の味噌田楽、会津地鶏のアスパラ射込み蕎麦の実餡かけ）が会場で試食されました。

素材の良さが活かされた3品の料理メニューは、同協議会などでPRを行い、また、民宿や食堂の料理として出される予定。会津地鶏は、まだまだ生産量が少ないものの味は折紙付きで、今後、生産体制の整備と需要拡大を図りながら、南会津地方の特産品として定着させていく考えです。



南会津のグリーン・ツーリズムを凝縮したガイドブックとデータブック



会津地鶏の定着に向けて頑張りましょう！

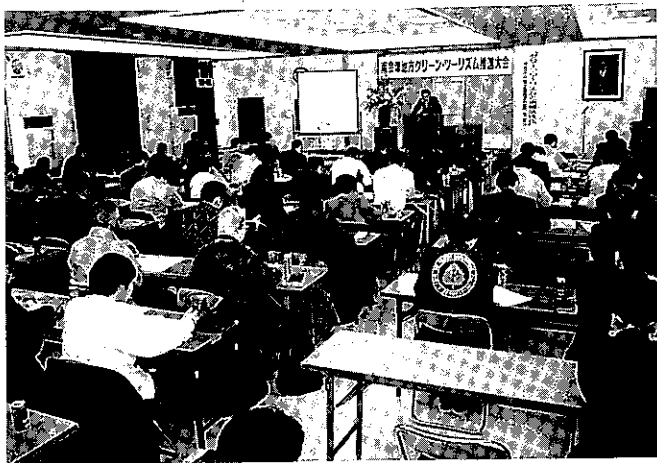
### ◆ 南会津でグリーン・ツーリズムインストラクター研修会、推進大会を開催しました

2月9日、田島建設会館において南会津地方グリーン・ツーリズムインストラクター研修会と推進大会を南会津地方グリーン・ツーリズム推進協議会の主催で開催しました。南会津郡内をはじめ県内各地のグリーン・ツーリズム関係者など約80名が参加しました。

午前のインストラクター研修会では、JA全中・地域特産加工専任アドバイザーの緒方博修氏に

より「グリーン・ツーリズムにおけるインストラクターの役割」と題した講演が行われ、『インストラクターは教えるのではなく、一緒に楽しむことが必要』と述べられ、また、危険を回避する重要性についても解説するなど、グリーン・ツーリズムを実践するためのポイントを話されました。

続いて行ったグリーン・ツーリズム推進大会では、東日本国際大学経済学部国際経済学科の青木辰司助教授によって「グリーン・ツーリズムと地域活性化」と題し、国内外の現状や課題についての講演が行われました。



グリーン・ツーリズムについて熱の入った講演を行う

#### ◆下郷町の渡部和子さんが「下郷町きのこ部会・婦人活動」について発表しました

2月25日に林業試験場で開催された、林業研究グループ技術交換会（活動実績発表会）において、下郷町の渡部和子さんが「下郷町きのこ部会・婦人活動」という題で、下郷町林業振興協議会の中のきのこ部会の活動について発表され、(社)福島県林業協会会長賞を受賞されました。

渡部和子さんは、下郷町のきのこ栽培の先駆者で夫の善一氏と共に積極的にマイタケ・ナメコ・ハタケシメジ等の多種多様なきのこ栽培と、カボチャ等の野菜栽培に取り組んでおります。特に婦人活動として取り組んでいる「きのこ祭」等のイベントの指導者の一人であり、その取り組みについて発表されました。

この発表会は、福島県内の林業振興を図るため、県内の森林・林業活動に積極的に取り組んでいる方々からその活動について発表していただいております。

また当日は、東京都の指導林家である田中惣次氏より「林業新時代」という題で、東京都檜原村で取り組んでいるこれからの「シン（新しい・親しみ・森林・心の元（原風景・原体験）林業）」として「遊学の森」を整備し、林業体験等を通じて取り組んでいる体験学習活動について講演をいただきました。



林業研究グループ技術交換会で発表する渡部和子さん

### ★地域紹介コーナー

#### ・・・檜枝岐村・・・

#### 「都市との交流を図る拠点づくり」

「尾瀬のある郷檜枝岐」をキャッチフレーズに地域づくりに取り組んでいます。今回新たに採択した事業は、新山村振興農林漁業特別対策事業で、都市との交流を図り、地域経済の活性化に結びつけようとする事業です。

施設整備については、平成11年度、12年度の2ヶ年継続事業で実施し、12年7月にオープン予定で現在工事が進んでいます。

施設の内容は、平成11年度に実施した温泉掘削工事により湧き出した温泉を利用して、都市との交流の場、はだかの語らいの場、更には、尾瀬

檜枝岐村産業建設課長 星 譲

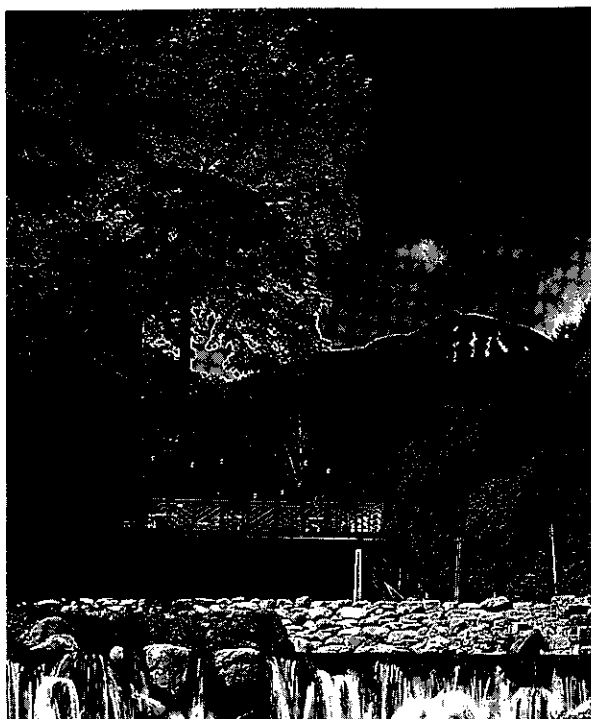
を訪れた観光客にも大いに利用していただこうというもので、施設の面積は486m<sup>2</sup>にも及びます。

こうした基盤整備を行うことにより、地域経済の活性化につながり、都市部からのUターンが図られ、若者の定住化が期待されています。

国においては過疎法の見直しにより、当村も人口の減少率等により過疎地域から脱却することとなり、住みやすい居住環境が整備されているかに見受けられますが、反面、交付税等の財源措置が受けられない状況となり、自主財源の確保がさら

に求められる行政運営が強いられることとなります。そのためにも行政は勿論、村民が一体となり活路を見出す必要に迫られています。

農林業の衰退している当村では、観光を主産業として推進しています。日光国立公園「尾瀬」は世界的にも有名ですが、檜枝岐村についてはインパクトが弱く、尾瀬をコンパクトに模した「ミニ尾瀬公園」(昨年オープン)などの施設整備や、イベントの開催などにより観光産業の推進に取り組み、また、地域にマッチした補助事業等を模索しながら、地域経済の活性化を図っていきたいと思います。



昨年オープンした「ミニ尾瀬公園」

## 特集！ モデル集落の活動状況

南会津管内では、集落営農のモデル集落として3集落が集落営農に取り組んでいます。この3集落の活動状況の一部を紹介します。

### ●田島町田部集落 (モデル集落2年目)

昨年は集落内の遊休地を利用して7戸の農家がフキの栽培に取り組みました。フキは山菜として需要があり販路はJAで全量買い上げの予定です。

今年は、さらに9戸がフキの栽培に取り組む計画です。現在、ほ場の選定や優良種苗の確保に当たっています。田部集落は、アスパラガスの産地でもあり、アスパラガスとフキを核とした集落づくりを進めていく計画です。

### ●伊南村宮沢集落 (モデル集落2年目)

平成11、12年度に、水田基盤整備事業が実施・計画されています。この水田基盤整備を機会に担い手への農地集積や転作作物の団地化などが検討されています。特に、転作作物に付加価値を付けた食品加工品やその販路には集落の半数以上が、その内でも女性たちが強い関心をもっていため先進地の調査や事例集を参考に食品加工の品目を検討してきました。この結果、そばはっとう、ごごみ、そばやきもちの三品目を今までに試作しました。今年は、試作品を完成させ販路に道筋をつけていきたいと考えています。

### ●只見町梁取集落 (モデル集落3年目)

梁取集落は、モデル集落としての活動以前から集落独自で集落営農に取り組んできました。この集落活動が認められ、平成9年には「豊かな村づくり全国表彰」で農林水産大臣賞を受賞しました。

主な活動は、生産調整の完全達成に向けた活動と転作の団地化を推進してきました。この結果、トマト、リンドウ、ソバなどの収益性の高い品目が団地化され 収益の向上に寄与しています。また、水稻直播栽培にも早くから取り組み稲作の先進技術を地域に波及しました。このように、集落全体で農業や文化活動に取り組むことにより、後継者も意欲を持って農業に取り組んでいるようです。



遊休地を利用したフキの植付け

## 驕（おご）るなかれ

先日、某新聞紙上に大きな見出しで、「リストラ・Uターン・田舎暮らし志願・・・故郷へ帰ろう。日本労働組合総連合が音頭」とあった。

過疎化の進んだ農山村の活性化と、田舎暮らしにあこがれる都市住民の要望に応えるのが目的で、リストラで失業した都市労働者の受け皿づくりもねらうのだそうである・・・目標百万人。

過疎で、高齢化で、後継者不足に悩んでいる農山村にとっては、歓迎すべきことであろうが、果たしてそうだろうか。

戦後、といってもわずか50年前、引き揚げ者や復員兵、産めよ増やせよで子沢山の大家族を、農山漁村は大変な苦勞をして養った(?)のである。

やがて、もはや戦後ではない。やれ〇〇景気よ、金の卵よ、ともてはやされ、都会に出て都市の繁栄を築いた数百万人。人も電力も、水に米に野菜と地方が供給したからこそその繁栄であろうに・・・それが掌(てのひら)を返したように、バブルがはじけ平成の大不況だから、生活が大変だから、定年で、リストラで就職もままならないから、田舎へ、故郷へ帰ろうでは、余りにも虫がいいではないか。

それよりも、出身地である故郷へ戻る人はともかく、地縁もない都市生活者がIターンでの田舎暮らしは並大抵ではなく、頑張っておられるのを現地で見ているだけに、一抹の不安を禁じ得ない。

農業を始めたい「よそ者」に、農地をもっとたやすく利用できるように敷居を低くし、村落の社会慣行も開かれたものに改める必要がある、とも解説している。農山村では、都市生活者が持ち込む知恵と資金、労働力が地域の活性化に役立つのは間違いない・・・とも。

それにしても、ボランティアや週末だけの田舎暮らしならともかく、生活の拠点を移し、定住するからには集落の決まり、慣行に従うのは当然な条件であろう。

たしかに、農山村は今まさに「とうえんめい帰りなんいざ まさあ田園將に蕪れなんとす なん胡ぞ帰らざる・・・」  
陶淵明「ききよらいのじ歸去來辭」ではある。

それなりの覚悟と気構えでならどうぞと歓迎もしようが、リストラされたから田舎暮らし、定年帰農よでは「都市生活者よ‘おごる’なかれ」と言いたいのである。

所長 横田

## 3ヶ月予報

仙台管区气象台発表の「東北地方3ヶ月予報」

3月 期間の初めは冬型の気圧配置となる日もありますが一時的でしょう。その後、低気圧と高気圧が交互に通る、天気は数日の周期で変わる見込みです。

4月 低気圧と高気圧が交互に通る、天気は数日の周期で変わるでしょう。

5月 移動性高気圧に覆われ晴れる日が多いですが、本州南岸に停滞する前線の影響でぐずつく時期もあるでしょう。3か月間降水量は平年並みでしょう。

## お問い合わせ

あて先 〒967-0004

福島県南会津郡田島町大字田島字根小屋甲4277-1

みなさんのご意見ご感想をお寄せください。

南会津農林事務所企画部 地域農林企画室

郵便・FAXどちらでも結構です。

TEL 0241-62-5866 FAX 0241-62-5349

この広報誌は再生紙を使用しております